

学校関係者評価委員会 公開資料

1. 開催日時：平成 29 年 8 月 4 日（金） 14 時 00 分～
2. 開催場所：国際テクニカルデザイン・自動車専門学校 9 階試食室
3. 出席者：学校評価委員 30 名（企業等委員 16 名＊別紙記載 学校教職員 14 名）

（1）平成 28 年度学校評価

①教育理念・目標

昨年同様概ね良好

外部に向けての発信力を強化

②学校運営

昨年同様概ね良好

さらにコンプライアンス体制の充実を図る

③教育活動

職業教育については今後、更に企業との連携を図る

関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修の取り組みについて、実施回数を増やすと共に内容の充実を図る

職員の能力開発のための研修会も関係団体主催の研修等に昨年以上に参加

④学習成果

昨年同様概ね良好

退学率については経済的な理由を主にして上昇

退学防止対策については委員会の設置および各系の科会にて、さらに防止策の協議を行う

卒業生に対するアンケート調査の実施

⑤学生支援

昨年同様概ね良好

社会人のニーズをさらに研究し、受け入れ態勢と広報活動を強化

⑥教育環境

昨年同様概ね良好

⑦学生の受入れ募集

昨年同様概ね良好

⑧財務

昨年同様概ね良好

⑨法令等の遵守

昨年同様概ね良好

⑩社会貢献・地域貢献

昨年同様概ね良好

(2) 協議（質疑応答・意見交換）

- ・大学進学が増えて、大学の専門学校化が進んでいる。より実践的な内容にするため外部の方々のご意見を取り入れて、大学に負けない学校にしたい
- ・先生方の学生と過ごす時間を増やしてほしい
- ・学科の特性に合った学生対応をお願いしたい
- ・本人の技術向上はもちろんだが、友人関係についても大人の対応ができるようになっている。
- ・外部講師の立場として精神的に弱い学生のケアが難しい。先生方とのコミュニケーションを更に充実させて学生指導に生かしたい
- ・最近は応用性に欠ける人が多い。応用が出来るようにするためにもしっかりと基本をマスターさせてほしい
- ・今の学生の精神面の弱さは分かっていることなので、どうすれば強い学生を育成できるかを協議してほしい
- ・学校でしか教えられないことがある。人材育成の方向性を明確にするべき
- ・インターンシップで学生を受け入れると、その学生の適性が現場の人間にはわかる。仕事は厳しいものであり、車が好きとか食べることが好きではなく、学生自身が自分の適性がわかるように細かな部分で具体的に好きなことを作ってあげてほしい。また、素直さや挨拶をしっかり身に付けさせてほしい

(3) 今後の自動車整備学科・一級自動車整備士学科への要望・意見

- ・自動車整備業界への就職希望者が少ない。ここ数年の国交省による全国的な高校訪問活動実施もあり効果も表れているが、まだまだ足りていない。
- ・自動車業界の悪いイメージの払拭が必要
- ・離職者が多いのは実情であり、改善しなければならない大きな課題。厳しい環境におかれてもコミュニケーションをとれるように、まずは学校の方針でもある挨拶の徹底を図ってほしい
- ・今の整備業界は整備が出来るだけではやっていけない。整備説明はもちろんだが、予防整備を促すためには、高いコミュニケーション能力が必要

< 学校関係者評価委員 >

役職名	氏名	所属名・役職名	備考
委員	稲葉 公一	鮎菜	地域代表
委員	山崎 直美	のぞみの会長 (デザイン・自動車・美容)	PTA 代表
委員	殿塚 貴子	のぞみの副会長 (調理)	PTA 代表
委員	赤荻 一也	RED-JAPAN 株式会社 代表取締役	卒業生代表
委員	布川 英一	(一・社) 栃木県自動車整備振興会 教育技術部 部長	業界関係者
委員	酒田 守視	亀田自動車株式会社 専務取締役	業界関係者
委員	鈴木 貴嘉	株式会社シンコー 代表取締役	業界関係者
委員	蓮見 公男	茨城県印刷工業組合 副理事長	業界関係者
委員	堀田 菜緒	おやまくまる一む デザイナー	業界関係者
委員	高崎 利成	日本音響家協会 副会長	業界関係者
委員	鈴木 千春	Heartfulone 代表	業界関係者
委員	田中 一夫	(一・社) 倫理研究所 小山市倫理法人 会長	業界関係者
委員	長山 優	株式会社コーラス 代表取締役社長	業界関係者
委員	山本 勝弘	一般財団法人 国際美容協会 東北ブロック支部長	業界関係者
委員	吉田 将人	有限会社 マジックコーポレーションリミテッド 取締役社長	業界関係者
委員	佐藤 利彦	有限会社プレア 専務取締役	業界関係者

※任期 平成29年4月1日～平成30年3月31日